

ミズトンボ
「水蜻蛉」(ラン科)

北海道～九州の日当たりのよい湿地に生える多年草。名前の由来は花の形がトンボに似ることから。神奈川県内では箱根仙石原のみに自生する。



箱根湿生花園の花だより

2018年8月15日 発行

お子様連れのお客様が多く、園内が賑やかな雰囲気になっています。まだまだ暑い日が続きそうですが、ススキ草原区ではオミナエシやヤマハギなどの秋の七草が風に揺れ始めてきました。

園内特設会場では「世界の食虫植物展」を開催中！8/25(土)、8/26(日)に開かれる展示即売イベントは、珍しい食虫植物を入手するチャンスですので、こちらもお見逃しなく！！



「世界の食虫植物展」開催中！

ハエトリグサやウツボカズラなどの食虫植物を約100種700点、展示しています。開催期間は9月9日まで。期間中には食虫植物ミニ教室・展示即売イベントを開催します。

食虫植物ミニ教室 日時：8/18(土)～8/24(金) 13:30～約30分間
展示即売イベント 日時：8/25(土)、8/26(日)



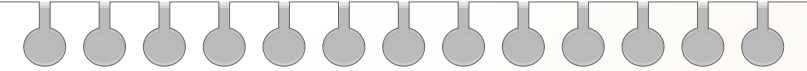
Pick Up レンゲショウマ 「蓮華升麻」キンポウゲ科

レンゲショウマは本州(福島県～奈良県)の山地の落葉広葉樹林内に生える多年草です。名前の由来は、下向きに咲かせる花がハスを連想させ、葉がサラシナショウマに似ていることから付けられました。7～8月になると、かわいらしい球状の蕾から、淡紅紫色のシャンデリアのような花を咲かせます。1属1種の日本特産種で、その美しさから「森の妖精」と称され、夏の花の中でも人気のある植物のひとつです。

8月15日現在、箱根湿生花園のレンゲショウマはたくさんの蕾を付けており、これからが見頃となります。連日猛暑が続いていますが、林の中で涼しげな花を観察してみたいかがでしょうか。



ムラサキミミカキグサ
「紫耳搔草」(タヌキモ科)
北海道～九州(屋久島まで)の湿地に生える食虫植物。地下茎に付いた捕虫囊で微生物を捕らえる。



File 9 ハラビロトンボ 蜻蛉目 トンボ科

箱根湿生花園では、この時期、様々なトンボを見ることができます。その中でも今回は少し変わった形をしたハラビロトンボについて紹介します。ハラビロトンボは、北海道～九州まで広く分布するトンボで、草丈が低く明るい草地に生息します。腹部が他のトンボと比べ顕著に短く幅広なのが特徴です。雄は成熟するとシオカラトンボと似たような体色に変化しますが、草などに止まっている状態を観察すればすぐに見分ける事ができます。植生復元区で縄張りを主張していることが多いので是非探してみてください。



Botanical Gallery



サギソウ
本州～九州の山野の日当たりのよい湿原に生える多年草。名前の由来はシラサギが翼を広げたような形の花が咲くことから。



キレンゲショウマ
本州(紀伊半島)～九州の深山の林内にまれに生える多年草。名前の由来はレンゲショウマに似ていて、花が黄色ということから。



ワレモコウ
北海道～九州の山野の日当たりのよい草地に生える多年草。花は暗赤紫色で、穂の先端から開花する。



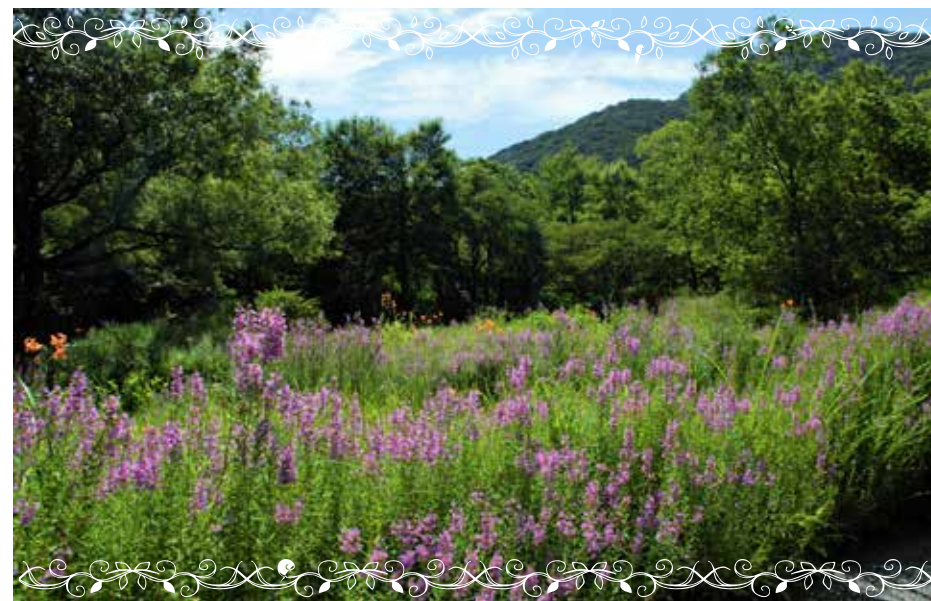
ツリガネニンジン
北海道～九州の山野に生える多年草。鐘形の花を輪生して付ける。若芽は「とき」と呼ばれ、山菜として食べられる。



オミナエシ
日本全土の日当たりのよい山野の草地に生える多年草。秋の七草のひとつ。「万葉集」などで詠まれている。



コバギボウシ
北海道～九州の山野の日当たりのよい湿地や林内の湿地に生える多年草。名前の由来は葉が小型のギボウシという意味。



ミソハギ 「襖萩」(ミソハギ科)
北海道～九州の山野の湿地に生える多年草。お墓や仏前にお供えする花としてよく使われ、別名はボンバナ(盆花)。ミソハギが群生している場所は、赤紫色に染められています。

ご利用案内

通常営業 9:00～17:00(最終入園16:30)
大人(中学生以上)700円 小人(小学生)400円

アクセス

小田原駅または、箱根湯本駅より箱根登山バス(湖尻・桃源台行)“仙石案内所前”下車、徒歩8分。強羅駅より箱根登山バス(湿生花園行)終点下車。東名高速道路・御殿場ICより、車で20分。

Hakone Botanical Garden of Wetlands

はこね湿生花園

〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 817

<http://hakonekanko.com/>